
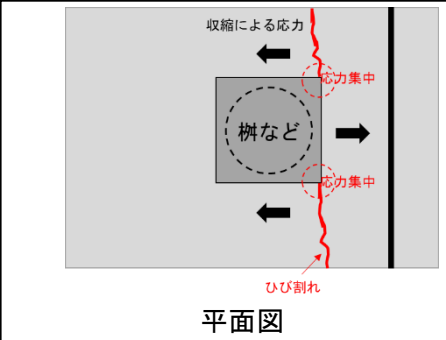
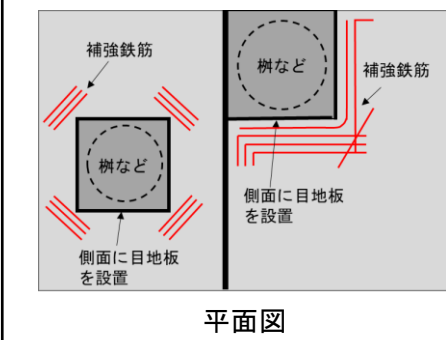
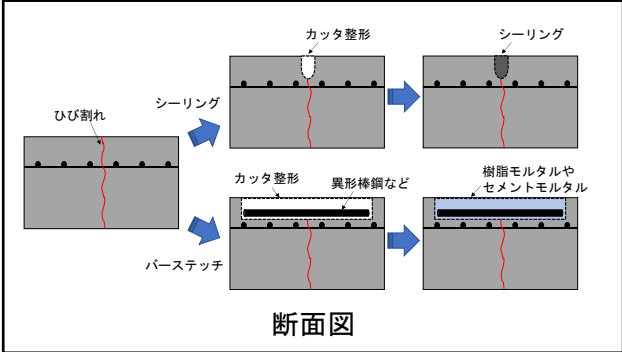


| | |
|--|---|
| 発生箇所 | ③コンクリート版表面, ⑤コンクリート版内部 |
| 分類 | 設計 |
| 参考箇所 | 4-4-5 コンクリート版の補強, 9-3-1 ひび割れ |
| <p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通コンクリート舗装版中に設置された集水柵の角から舗装にひび割れが生じた。 |  |
| <p>●原因</p> <ul style="list-style-type: none"> 集水柵と舗装の間に縁切りの目地板が設置されておらず（設計上）、集水柵の部分で伸縮が拘束され応力が集中した。 |  <p>平面図</p> |
| <p>●発生防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> 集水柵などで断面欠損が大きくなる部分には目地を設置する。 基本的にはコンクリート版の中には構造物を設置しないよう設計変更などを行う。 やむを得ず設置する場合には、構造物隅角部周辺に補強鉄筋（D13）を設置し、ひび割れ幅の拡大を防止する。 構造物側面に目地板を設置する。 |  <p>平面図</p> |
| <p>●発生した場合の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ひび割れ箇所に瀝青材や樹脂材を用いたシーリングを行う。 バーステッチを行い、ひび割れ箇所を連結する。 |  <p>断面図</p> |